



AUE News

2013年4月15日

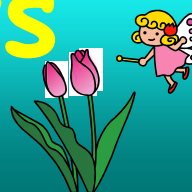
第 60 号

編集・発行

愛知教育大学広報チーム

TEL 0566-26-2738

FAX 0566-26-2500



目次

- 行事予定(4月16-30日)
- トピックス
 - ・新採用職員研修会
 - ・入学式
 - ・「学生能への招待」展
 - ・2013年度博士課程共同強化開発学専攻の合同ガイダンス
 - ・職員研修 (SD)
- 東日本大震災教育復興支援ボランティア報告
- 愛教人インタビュー
 - ・OG 片嶋佑果さんが女子ラグビー日本代表に
- お知らせ・報告・投稿
 - ・教育臨床総合センターが公開シンポジウム
 - ・招へい教職員による講演会 (第6回)
 - ・「Campus Now!第18号」発行
 - ・学内の芝桜が見ごろ
 - ・催しもの案内

行事予定(4/16-30)

- 16日(火) 役員部局長会議 (13:00～ 学長室)
評価委員会 (役員部局長会終了後, 学長室)
大学改革推進委員会 (16:40～ 第三会議室)
- 17日(水) 財務委員会 (15:30～ 第五会議室)
- 18日(木) 教育実地研究専門委員会 (15:00～ 第五会議室)
- 19日(金) 附属学校運営委員会 (15:00～ 第三会議室)
- 23日(火) 役員会 (13:00～ 学長室)
- 24日(水) 教授会 (13:30～ 第一会議室)

トピックス

新採用職員研修会(4/1,2)



2013年度新採用職員を対象にした研修が、4月1日(月)、2日(火)の両日、第五会議室で行われました。同研修は、新採用の教職員に本学の教育研究のあり方や諸課題などについて説明し、職務遂行に必要な基礎知識を習得し、大学運営への理解を深めてもらうことを目的に、毎年この時期に実施。今回は2012年4月2日以降、2013年4月1日までに採用された教員、研究員、事務職

員合わせて27人が参加しました。

講師は松田正久学長をはじめ、各担当理事、監事、附属学校部長で、それぞれ20分～30分で大学の概要などを説明。松田学長が「国立大学法人愛知教育大学の目指すもの」と題して、大学を取り巻く状況、国立大学改革の課題、2012年度採択のプロジェクト、大学改革についての状況や課題を報告説明し、



「学生目線に立って職務遂行を」の言葉で締めくくりました。

研修は午後4時ごろまで行われ、その後の茶話会では、学系長も参加し、受講者、講師、が自己紹介をしながら和やかに歓談しました。（法人企画部 人事労務課副課長 丸山祥弘）

入学式(4/4)

2013年度入学式が4月4日（木）午前10時30分から、本学講堂で行われました。今年度の入学生は、教育学部957人（教員養成課程699人、現代学芸課程258人）、大学院135人（教育学研究科修士課程81人、教育実践研究科（教職大学院）50人、共同大学院博士課程4人）、1年課程の特別支援特別専攻科29人、の総計1,121人。この日は1,097人が出席しました。



前日までの春の嵐も止み、満開の桜に春の日差しが降り注ぐ暖かな日となり、講堂テラスでは在校生によるクラブの勧誘の声が響く中、新入生を迎えて式はスタート。吹奏楽団が「オセロ」（アンフレッド・ドリード作曲）を厳かに演奏した後、松田正久学長が「1,097人の入学を許可します」の入学許可宣言。続いて、新入生を代表し、中等教育教員養成課程の細井春希さんが入学宣誓を行いました。

松田学長は、告辞の中で「愛知教育大学は教員養成を主軸に教養教育を重視する大学づくりを進めています」と本学の特徴を説明。愛知教育大学憲章にある研究の目的を「世界平和と持続可能な社会の形成に寄与すること」として挙げ、「現実を見据え、分析する中で常に批判的精神に裏打ちされた活動をしなくてはなりません。この批判的精神こそが、学問の壁を打ち破り、新たな知を切り開く原動力。皆さんは先生方の講義を『なぜ、どうして』という感性を持ちながら咀嚼・吸収していただきたい」とエール。今年度は前身の愛知県養成学校創立から140周年になること、新たに総合教育棟（仮称）を建築するなど、学生生活の充実に努めることを誓い、告辞の言葉としました。

この後、役員部局長の紹介、混声合唱団による学生歌が披露され、式は無事に終了しました。

また、午後6時30分から行われた夜間入学式には、教員など働きながら学ぶ大学院入学生24人が出席しました。

告辞の全文は大学HP（http://www.aichi-edu.ac.jp/intro/message/letter_130404.html）を参照してください。



「学生能への招待」展(4/7-19)

本学の能楽部が主催する「学生能への招待」展が4月4日（木）、附属図書館のアイ♥スペースで始まり、4月19日（金）まで。入場無料です。



同展は、学生能の活性化を目的に同部が企画し、一昨年に続いて2回目の開催。日本の伝統芸能に興味を持ち、学生能の活動を知ってもらうことで、活動に参加・協力してもらうのが目的。日ごろの活動や、能の型の説明などを写真パネル20点で紹介し、能面6点も併せて展示しています。



同部は20年ほど前に活動を停止、4年前に再開。新たに活動を再開したのは当時学部生だった岩田大輔さん（教育学研究科美術教育専

攻、院2年)。「一人で立ち上げましたが、クラブ・サークルのオリエンテーションなどで興味を持った学生が加わり、今は部員が6人います。今年も新入部員の勧誘も兼ねて、この時期に展示をしました」。

17日(水)午後零時40分からは、会場で仕舞「羽衣キリ」ほかの実演が予定されています。

2013年度博士課程共同教科開発学専攻の合同ガイダンス(4/7)

愛知教育大学と静岡大学教育学部が共同で設置している博士課程共同教科開発学専攻の合同ガイダンスが、4月7日(日)午後1時から浜松市文化振興財団研修交流センターで実施されました。ガイダンスには新入生9人と2年生10人の全学生と、両大学の関係教職員34人が出席しました。



共同教科開発学専攻連絡協議会の議長は、愛知教育大学と静岡大学が隔年で務めることになっており、本年度は、静岡大学が担当することから合同ガイダンスも静岡大学の委員を中心に進行。静岡大学の村山功学務委員が司会を務め、同大白畑知彦連絡協議会議長のあいさつの後、新入生、2年生、教員、事務職員の順にそれぞれの専門分野や業務内容を中心に自己紹介を行いました。新

入生からは今後進めたい研究内容についても併せて報告がありました。

引き続き、白畑議長から共同専攻の概要について、同大小南陽亮学務委員長から教育方法について説明の後、学年別に分かれてガイダンスを続け、特に新入生に対しては授業時間割等の年間スケジュール、履修登録方法、さまざまな事務手続き方法等について詳細な説明を行い、各指導教員等と今後の授業履修計画や研究計画などの相談が行われました。

4月14日(日)から遠隔教育システムによる授業が開始され、新入生にとって本格的な研究活動がスタートしました。(教務課大学院グループ)

職員研修(SD)(4/11)

国立大学法人和歌山大学の渡部幹雄・附属図書館館長(特任教授)が4月11日(木)、「大学を変えるととは?~図書館改革の視点から~」をテーマに本学で講演しました。本年度第1回の職員研修(SD)として企画され、鏡山典子人事労務課長が司会を務め、冒頭、松田正久学長が「渡部さんは学生の立場に立って大学図書館を変えてこられた。この研修が、職員にとって学生目線で見ると、変えていくとはどういうことを考えるきっかけとなり、本学の図書館も変わることができればありがたい」とあいさつ。岩崎公弥理事(附属図書館長)から渡部氏のプロフィール紹介があり、講演に移りました。



渡部氏は故郷の大分県や請われて行った長崎県などで地域の学びの拠点として住民に利用される公立図書館を目指して知恵を絞り、開設に奔走してきた経験談や寸暇を惜しんで日本の大学、世界にある図書館を見て回った見聞録を披露。また、大学に赴任した当初、倉庫化していた館内の改善に着手。「図書館は空間づくりが大事。人と本が出合い、融合する場所で、まず、片付けから始めました。1カ月後に行動計画を作り、情報交流をメインにした図書館のポンチ絵を描き、レファレンス(調査相談)サービスができる館員を育て、図書館で学生の学びが誘発されるよう図書館機能を高める目標をつくりました。学内の理解を得て、一つずつ実現してきています」「職員には与えられた以外の5%の余分な仕事をしてほしいと、皆でつくる図書館を提案。



学生とつながりを持つために新聞の折り込み広告を整理した情報提供や、利用者のニーズを分析するなどアイデアが形になってきました。職員が自分の言葉で取り組みを学長らに説明した時には、仕事を通して成長した姿に感激しました」と語りました。

渡部氏は「志とミッションを持ち、仕事に垣根を作らず、楽しみながら、できることからやっていると、意思の疎通ができ、職員が主体的に動けば、学生はその姿を見て、質の高い図書館の空間ができていきます」と話し、機械化できない、職員にしかできない図書館づくりを目指すよう、強調して、質疑を含めて2時間余りの講演を終えました。固定観念にとらわれない発想、行動力、課題解決への姿勢など示唆に富んだ講演内容に、聴き入っていた45人の職員からは渡部氏に大きな拍手が送られました。
(法人企画部長 中原道文)

東日本大震災教育復興支援ボランティア報告

この春期休業期間に、本学では東日本大震災被災地へ「教育復興支援ボランティア」として学生を派遣しました。期間は3月25日(月)～29日(金)、支援場所は南三陸町志津川中学校で、今回は9人が参加。その報告を紹介します。

*

東日本大震災から早2年が経った南三陸町で見た景色は、私の予想とは異なるものでした。未だに瓦礫やボートが街中に積み上げられており、そんな景色を横目に不安な気持ちを募らせたまま目的地に到着しました。

生徒たちとの初対面では、なぜかどこか身構えていましたが、目の前にいたのは普通の中학생でした。少し胸を撫で下ろして教室から見える海に感動した直後、「全てを奪った海が見える教室で過ごす生徒たちはどんな気持ちなのだろう」と改めて気をひきしめ直し、支援へと向かいました。



部活動では部員が10人もいなかったり、道具が新しかったりとやはり節々に震災の爪跡を感じざるを得ませんでした。そして学習支援でも笑顔の絶えない会話の中で「家が仮設だから」と何度も耳にし、その度にどう返したらよいかも分からず言葉を詰まらせ、自分のふがいなさに情けなくなりました。

活動を終えて強く感じたことは、少しずつ被災地が忘れ去られているということです。今回感じたこと、見たことを人に伝えるということも支援の一つというリーダーの言葉に強く共感し、これからは自分にしかできないボランティアを続けて生きていきたいと思います。そして支援の輪が広がっていけば、いつまでも被災地が忘れ去られることはないでしょう。

(自然科学コース 宇宙・物質科学専攻4年 水野歩)

*

本学では、今後もボランティア派遣を継続していきます。5月中旬から、新規のボランティア募集を実施します。

問い合わせは、学生支援部長まで。 E-mail:gabutyo@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

愛教人インタビュー

OG 片嶋佑果さんが女子ラグビー日本代表に

本学を2012年3月に卒業した片嶋佑果さん(東京都在住)が、2016年リオデジャネイロ五輪で実施されるラグビー7人制の女子日本代表に選ばれました。片嶋さんは、在学中は陸上部に所属して、日本学生対校選手権の円盤投げで8位に入賞。中京大学との合同練習で、男子ハンマー



投げの室伏広治選手の父、重信氏に指導を受けた際には「パワーは全国でも通用する」と評価されるなど、期待の選手でした。その片嶋さんは大学卒業後、女子7人制ラグビーに転向。めきめき頭角を現し、昨秋のワールドカップ（W杯）アジア地区予選では本大会の出場権獲得にも貢献しました。このほど来学した片嶋さんにラグビーにかける意気込みなどを聞きました。

☆

☆

—陸上競技から、なぜラグビーに転向したのですか？

ラグビーは父親が学生時代にやっていたので、奈良県出身の私は花園（ラグビー場）などに子どものころから観戦に連れていかれて、大好きなスポーツに。リオ五輪の種目になると聞いて、「やりたい!」と思って、知人を通じて現在所属するクラブチーム「ラグール7」を紹介してもらいました。ここでは働きながら練習できる雇用支援があります。普段は丸の内でOLをしています。

—女子ラグビーは、まだ競技として珍しいですね。

女子ラグビーがあることが世の中の人にほとんど知られていないですね。ラグビーは普通15人制ですが、7人制。試合の展開が早いので、面白いです。まずは存在を知ってもらって、応援してほしい。チームを応援してもらえるように、自分たちも各地でイベントを開催するなどして普及に努めています。



—卒業後に始めて、わずか8カ月で日本代表選手に選ばれるのは、すごい事ですね。

たまたま、自分のポジションをやっている人が少なかったんです。でも、陸上をやっていたときは、人とぶつかることはなかったので（笑）、最初は戸惑いました。激しい動きで、今ではケガは付きもの。練習はほとんど毎日、朝晩やっています。日本代表に選ばれてからは、大きな試合の2カ月ぐらい前からは強化合宿に参加するので、職場では理解をしてもらっています。

—奈良県出身の片嶋さん。そもそも、愛教大へ入学したきっかけは？

中学生・高校で投てき種目をやっていて、体育大に進むつもりでしたが、高校の恩師の知り合いが愛教大の先生だったので、この大学への進学を勧められました。この大学での4年間は、体育以外のたくさんのことを学べて、愛教大に来て本当によかったです！



—2016年のリオ五輪に向けての、今後の目標は？

五輪の種目にはなりましたが、日本が出場するには、2015年アジア予選で世界上位12カ国に入ることが要件。現在は、アジアでは日本が1, 2番の位置にいますが、中国などは国を挙げて強化を図っているので、日本もさらに力をつけたいところですが、国内ではまだまだマイナー。理解・協力を得るのが、まず大変です。愛教大の皆さんにもぜひ、支援をお願いしたいです。今年6月にロシアで行われるワールド杯に出場するので、そこでまず日本チームをアピールします。（*試合の写真は片嶋さん提供）

出場するので、そこでまず日本チームをアピールします。（*試合の写真は片嶋さん提供）

☆

☆

片嶋さんたちはチームをあげて、女子7人制ラグビーの普及とともにタッチラグビー（タックルのないラグビー）の普及活動に努めています。5月26日（日）にはタッチラグビーのイベントが本学で開催される予定です。詳細が分かれば、AUE Newsでもお知らせします。

お知らせ・報告・投稿

教育臨床総合センターが公開シンポジウム(報告)

教育臨床総合センターでは一般向けの公開シンポジウムを毎年開催しています。2012年度の

テーマは「子育てに悩んだ時のヒント」で、3月17日（日）午後1時30分～同5時の間、名古屋国際会議場2号館で行われました。ゲスト講師に大妻女子大学大学院特任教授・日本心理臨床学会理事の深津千賀子先生を迎え2部構成で行われ、子育て中の方をはじめ子育て支援に携わる専門家など40人が来場しました。

第1部は深津先生による「育児不安、児童虐待の親支援を考える」と題した基調講演。内容は精神分析に立脚した豊富な臨床経験と実証研究に基づく最新知見が織りなされたものであり、子育て中の方から専門家まで広く参加者の心に響くものとなりました。深津先生は「子育てとはすぐに答えが見つかるような営みではなく、親の多くは自身の育て方がこれでよかったのだろうかと不安になり悩むことがあります、それは自然なことです」と語った上で、完璧であろうとすることと育児不安や児童虐待との関連性を指摘されました。



続く第2部は、教育臨床学講座の4人の教員がシンポジストとなり、指定討論者として深津先生を囲んでの有意義なシンポジウムが行われました。（教育臨床総合センター専任教員 三谷聖也、同兼任教員 廣瀬幸市）



続く第2部は、教育臨床学講座の4人の教員がシンポジストとなり、指定討論者として深津先生を囲んでの有意義なシンポジウムが行われました。（教育臨床総合センター専任教員 三谷聖也、同兼任教員 廣瀬幸市）

招へい教職員による講演会(第6回)(報告)

3月27日(水)、本学の国際交流センターは、協定校からの招へい教職員による講演会(第6回)を開催し、台湾・国立聯合大学の林 恵娟 教授と黄 素真 教授を講師に迎え、松田正久学長をはじめとする教職員が興味深く聴き入りました。

製鋼と金属の casting, ガラスの成形を専門とする林教授は、「数値モデリングの材料プロセスへの応用」というテーマで講演。パソコン筐体の casting プロセスシミュレーションや、本学の北村との共同研究で進めている、形状記憶合金 casting 材の材料温度シミュレーションについての結果を詳細に説明されました。



また、光学デバイスに専門とする黄 教授は、「液晶デバイスの開発」というテーマで講演。液晶分子の配向をレーザー光で制御した新しい光学デバイスについて詳細に説明されました。 casting プロセスの数値シミュレーションや、液晶を用いた光学デバイスについて、参加者からは多岐にわたる質問が寄せられ、活発な質疑応答も行われました。（技術教育講座 准教授 北村一浩）

「Campus Now! 第18号」を発行(お知らせ)

愛知教育大通信「Campus Now! 第18号」が4月1日(月)発行されました。この広報誌は、本学のキャンパスライフを紹介するため、教職員と学生が協力して企画・編集に当たり、春と秋の年2回発行しています。

今号の表紙を飾っているのは、この春の卒業生の皆さん。内容は、松田正久学長から学生の皆さんへのメッセージをはじめ、この半年の学生の皆さんの活躍、大学のトピックス、社会人の先輩からのメッセージ、就職体験記、研究室訪問やユニーク授業の紹介、第一福利施設リニューアルオ



ープンのお知らせなど盛りだくさんです。

配布は、附属図書館や生協、学生サポートセンターなどで行っていますので、手にとってあなたのキャンパスライフにご活用ください。
(広報チーム)

学内の芝桜が見ごろ(投稿)



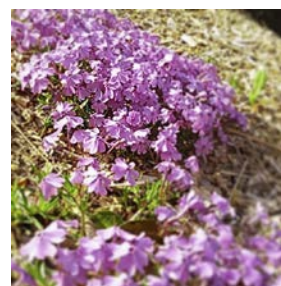
新学期の授業が始まり多くの新入生がキャンパスにあふれて、本学にも賑やかな雰囲気が戻ってきました。希望に胸を膨らませた活気ある学生の姿を見ることが出来るこの時期は、職員としても何となく、うきうきと心が弾む季節です。

今年は、例年になく春の嵐が続き、正門前から美しく咲き誇る桜並木の花びらも散ってしまうのではないかと心配しましたが、何とか入学式まで持ちこたえて

くれました。桜は早くも葉桜ですが、それに替わって第一福利施設から大学会館へと続く駐車場側面の芝桜が見ごろを迎えています。

昨年度、学生・職員ボランティア、施設課職員の皆さんが植栽してくださった芝桜は、短期間で成長し、冬の間もちらほらと花をつけることがあり、見頃を楽しみにしていました。一輪一輪は小さな可愛い花ですが、一面に咲き誇った鮮やかなピンクの芝桜はまるで絨毯のようで、出勤時や昼休みに眺めるたび自然と笑顔になります。

何かと慌ただしい毎日ですが、新入生はもちろん、ぜひ多くの方に休憩時間の散歩がてら綺麗に咲いた芝桜を見てリフレッシュしていただきたいです。
(教育創造開発機構運営課 総務・講習グループ 満田清恵)



催しもの案内

◆「学生能への招待」展

開催中～19日(金) 入場無料

附属図書館2階 アイ♥スペース

主催：愛知教育大学能楽部

内容：舞台写真や能面・記録映像等の資料と、学生による舞の実演により、能楽部の活動を紹介。

実演は4月17日(水) 12:30～13:00 仕舞「羽衣キリ」ほか

問い合わせ：附属図書館(カウンター) TEL 0566・26・2687

休館日の確認は附属図書館ホームページで確認してください。

<http://www.auelib.aichi-edu.ac.jp/>

◆愛知教育大学天文台 第81回一般公開

4月20日(土) 18:00～20:30

自然科学棟5階・地学538教室 入場無料、申し込み不要、雨天も観望会以外は実施

18:00～19:00 子どものための天文ミニ講座「星の名前七不思議・星座は誰がきめたのか」 講師：澤武文特別教授(理科教育)

19:00～20:30 観望会「月を見よう！」 天体：月ほか

19:00～ 「3D宇宙の旅」上映会 講師：澤研究室4年生

問い合わせは：理科教育講座 天文学研究室 TEL 0566・26・2624

愛知教育大学天文台ホームページ

<http://phyas.aichi-edu.ac.jp/~tenmon/>

◆新入生歓迎 春のランチタイムコンサート

4月24日(水) 12:30~13:15

附属図書館 アイ♥スペース

出演者: 音楽教育選修・専攻 3・4年生

プログラム: 独唱、ピアノ演奏、管楽器演奏など。詳細は当日プログラムを配布。

編集後記

本号で“60号”となりました。広報担当をはじめ事務局の苦心と努力、読者の皆さまの応援があつて実現できた節目です。人生で言えば「還暦」にあたる年。「一めぐり」した今、広報ニュースが一層、皆さまのお役に立てるよう広報チーム一同、努めていきますので、今後ご協力をお願いします。(K.O.)

本学OGで女子ラグビー日本代表選手の片嶋佑果さん。インタビューの日は、恩師で陸上部顧問の筒井清次郎教授へのあいさつのため来学。先生からのアドバイスで秘書広報課へも顔を出してくれました。以前から新聞報道などで情報をキャッチしていましたが、ご本人の突然の訪問に驚くやら嬉しいやら。ラグビー選手という響きから、さぞかし屈強な(?)と想像していましたが、身長165cmとそれほど大柄でもない笑顔の素敵な女性でした。陸上で鍛えた身体能力、五輪出場への情熱、そして度胸の良さ、細やかな心遣い…、そんな彼女の全てが日本代表選手の座をつかみ取った理由でしょう。リオ五輪までの道のりは長いですが、ぜひ頑張って志を貫いてほしいと、応援しています。(K)

投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール:kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者:総務担当理事 折出 健二